

今、話題のカウンターテナー、初来日! ヤクブ・ユゼフ・オルリンスキ

Jakub Józef Orliński, Countertenor Michał Biel, Piano

一瞬の美
永遠の喜び

世界中で話題!
バロック・オペラ界のスターがやって来る

© Jiyang Chen

予定されるプログラム(順不同)

バロック・オペラ&歌曲

ヘンデル: 私の嘆きを聞く者よ/月桂樹の冠を戴き(歌劇「アグリッピーナ」)
そよ風が吹き(歌劇「ロデリンダ」)/港はすぐそこに(歌劇「リナルド」)
荒れ狂う風が吹いて(歌劇「バルテノペ」)

パーセル: バラの花よりも甘く/汝は如何なる力か(歌劇「アーサー王」)
音楽が愛の糧であるならば(第1稿)/私を導いてください

ポーランドの作曲家による歌曲

バイルト: 『4つの愛のソネット』(シェイクスピアの詩による)

© Radoslaw Rzepecki

カルウォーヴィチ: 野をめがけ/わが魂いたく憂いて/最初の星々輝く
広い、広い海原を/話しつづけて/錆びた木の葉を/時おりつらつら

※やむを得ない事情により、曲目が変更になる場合がございます。ご承知おきの上、ご購入ください。

2026 **4/9** (木) 7:00PM 開演 (6:15PM 開場)

A 5,000円 B 4,000円 C 3,000円 D 2,000円 (全席指定/消費税込)

兵庫県立芸術文化センター KOBELCO 大ホール

〒663-8204 兵庫県西宮市高松町2-22 阪急西宮北口駅南改札口すぐ JR西宮駅より徒歩15分(阪急バス7分)

ご予約・お問合せ 芸術文化センターチケットオフィス **0798-68-0255** (10:00AM-5:00PM 月曜休み ※祝日の場合翌日)

一般発売
11/16(日)

チケット
予約

●芸術文化センター **0798-68-0255** <https://www.gcenter-hyogo.jp>
●チケットぴあ <https://pia.jp/t/>

●ローソンチケット <https://l-tike.com>
●イープラス <https://eplus.jp>

芸術文化センター会員先行予約受付開始 **11/15**(土)

直接購入 芸術文化センター2階総合カウンター【11/18(火)より、残席がある場合のみ】

※未就学児童はご入場いただけません。※プレイガイドでの販売はインターネットのみとさせていただきます。取扱いについては、各プレイガイドにお問い合わせください。
主催:兵庫県、兵庫県立芸術文化センター

「ピア」ミハウ・ビエル

兵庫県立
芸術文化センター
文化
POWER OF
CULTURE

オペラ歌手で余暇にはブレイクダンス! 新時代のスター誕生 ヤクブ・ユゼフ・オルリンスキ (カウンターテナー)

2024年、パリ・オリンピック開会式。ブレイクダンサーとしても注目されるカウンターテナー歌手の、うっとりするような美しい歌声とパフォーマンスが、セーヌ河岸を彩りました。その人は、今をときめくバロック界の新しいスター、オルリンスキ。

オルリンスキはポーランド出身。ジュリアード音楽院で学び、数々のアルバムやコンサートが高い評価を得て、ヨーロッパ、アメリカ各地でのコンサートほか、メトロポリタン・オペラをはじめ、各国の歌劇場や著名音楽祭にデビュー。飛ぶ鳥を落とす勢いの、話題のカウンターテナーです。その活躍は、バロック歌手にとどまらず、モデルをしたりブレイクダンスをするというところが、今風。

初登場のプログラムには、ヘンデル、バーセルなどのバロック曲ほか、自国、ポーランドの作曲家、カルウォーヴィチが並びます。カルウォーヴィチは、ポーランド音楽界を担う作曲家として将来を期待されていましたが、若くして世を去りました。今回演奏される曲の数々は、ロマンティックで神秘的で、心温まる、印象的な美しさに満ちています。

オルリンスキが歌うと、バロックも何だか新しい。

ピアノは、録音でも共演しているミハウ・ビエル。ポーランド出身で息のあった二人がみなさまに心躍るひと時をお届けします。(なおブレイキンはありません)

待たれた来日公演、いち早く、目撃者の一人になりましょう。



© Jiyang Chen

「オルリンスキは真のカウンターテナーであり、私がこれまで聴いたオペラ、またはそれ以外の舞台を含めても、最上のもののひとつだ。

卓越したレガート、力が失われることのない低音域、丁寧なディクション、素晴らしい演劇的センス。

簡単に言うと、彼はこのレポートリーにおいて、このタイプの声に期待できることの水準を決定的に引き上げたのだ。」 ロジャー・バーカー、『オペラ』誌 2019年秋号



© Michael Sharkey

ヤクブ・ユゼフ・オルリンスキ [カウンターテナー] Jakub Józef Orliński, Countertenor

ポーランド出身。オペラ、コンサート、レコーディングで大成功を収め、国際的なクラシック音楽シーンで最も勢いのある演奏家の1人として急速に頭角を現した。最初のレコーディング『アニマ・サクラ』は評論家から高い評価を獲得し、名誉あるOpus Klassik賞ソロ・ヴォーカル・レコーディング部門を受賞。欧米ツアーは完売。ヴィヴァルディの「よろこびと共に会わん」のライブ動画

は視聴回数が400万回を超えている。フランス国立管や、リヨン国立歌劇場管と共演したコンサートなどのテレビ出演は世界中で数百万人に放送された。また『ザ・ニューヨーカー』誌や、ポーランド版『Vogue』でも特集された。バロック・オペラのアリアを収録したセカンド・アルバム『ファーチェ・ダモーレ』は、2019年11月にリリースされ、このアルバムを引っ提げてイル・ポモ・ドーロとヨーロッパ・ツアーを行った。また、ワーナーの『アグリッピーナ』の録音でジョイス・デイドナートと共演している。2017年にジュリアード音楽院を卒業してすぐに、エクサンプロヴァンス音楽祭でカヴァッリ作曲『エリスメナ』のオリメロ役でデビューし、国際的なキャリアをスタート。続くフランクフルト歌劇場でヘンデル

『リナルド』でタイトル・ロール・デビューを飾った。レザール・フロリサンとヴィヴァルディ『スターバト・マーテル』で共演。イングリッシュ・コンサートとは『リナルド』のエウスターツィオ役でロンドン、マドリード、ニューヨークでの公演に出演。グランドボーン音楽祭では『リナルド』で再びタイトル・ロールを演じ、イギリスでのオペラ・デビューを果たした。また、ヘンデル『メサイア』でワルシャワ・フィルハーモニー管と共演。ウイグモア・ホール、ヴェルビエ音楽祭、スペイン、ベルギー、ポーランド、ドイツ、オランダでソロ・リサイタルを開催し、高い評価を得ている。2021年にメトロポリタン・オペラにて、ヤニック・ネゼ＝セガン指揮で初演されたマシュー・オーコイン作曲『エウリディーチェ』ではオルフェオの奏でる“音楽”を演じ、話題を集めた。これまでに、カーネギーホール、サンフランシスコ・オペラ、チュリッヒ歌劇場、モスクワのザリャジエ・ホールなど、また、ヨーロッパとアメリカ全土で数多くのグループとコンサートを行っている。余暇にはブレイクダンスを楽しんでいる。この分野でも功績を残しており、多くのダンス・コンテストでの受賞を果たしている。また、CMや様々なブランドでダンサー、モデルとしても出演した。2023年、Opus Klassik賞のシンガー・オブ・ザ・イヤーを受賞。

<https://wmg.jp/jakub-orlinski/>



© Michael Sharkey

ミハウ・ビエル [ピアノ] Michal Biel, Piano



© Radoslaw Rzepecki

ポーランド生まれ。ワルシャワのグランド・シアター国立歌劇場のアカデミー、シマノフスキ音楽アカデミー、ジュリアード音楽院で研鑽を積む。これまでに、ロンドンのウイグモア・ホール、コンサート・ヘボウ、ベルリン・フィルハーモニー、ニューヨークのカーネギー・ホールおよびアリス・タリー・ホールなど、世界有数のコンサートホールで演奏。また、フランクフルト歌劇場、シャンゼリゼ劇場、ライン国立オペラ、ボルドー国立オペラ、リアル歌劇場、パレンシアのレイナ・ソフィア芸術宮殿、ワルシャワのグランド・シアター国立歌劇場など、著名なオペラハウスでもリサイタルを行っている。伴奏者としても優れた実績を誇っており、オルリンスキと録音した『フェアウェルズ』は、ポーランド・アルバム部門で最優秀とされるフレデリク賞にノミネートされた。また、ソプラノのアレクサンドラ・ノヴァコフスカと共に、ポーランド作曲家の歌曲を収めたアルバム『Kraina』も録音している。